©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所　湯川記念館史料室

日ソ物理学第一線学者座談会

日本の研究には注目

ソ連 設備、予算に恵まれる

わが国からは湯川博士ら三十数名が出席した米国シアトルの国際理論物理会議（九月十七日―二十一日）にソ連は数学、物理と広範な活躍をしているボグリウボフ博士を始め四人の科学アカデミー会員を送った。このソ連学者は会議中たえず活発な発言をし×て異彩を放つていた。また我国でもソ連の物理学の雑誌は若い学者たちに待ちあぐんで読まれるというので、この学会を機に日本側出席者の第一線、中村誠太郎助教授（東教大）と福田信之助教授（東大）と在米中の二人にボグリウボフ博士、マルチロシャン博士、ツァプリコフ博士の三人にソ連の物理学界の現状をつつこんできいてもらつた。（シアトルにて堀川特派員）

語る人

（順不同・敬称略）

ソ連科学アカデミー会員
ボグリウボフ
マルチロシャン
ツァプリコフ

東大助教授
中村 誠太郎

東京教育大教授
福田 信之助

遅れ勝ちな学術雑誌

中村 ソ連学者の仕事は日本でも大そうよく知られている。ソ連では日本で出している英文雑誌（プログレス・オブ・セオレティカル・フィジックス＝理論物理学研究のこと）を読んでいますか。

マルチロシャン 図書館に来ていてみな読んでいる。

ボグリウボフ しかし驚くのが遅い。

中村 日本語版は月二回謄写版で出しているが、これを送つてソ連側で飜訳するということができるだろうか。英訳すると五ヵ月も遅れる。

ボグリウボフ こちらで訳すのは多少困難。ところでそんなに飜訳がむずかしいのですか。

中村 いや金がないのだ。日本語版なら二種類出している。一つは素粒子研究。（マルチロシャン博士は「ああソリューシケンキュウ」と日本語で相づち）

福田 ところでソ連の発表はどうなんです。

マルチロシャン こちらも非常に遅れる。六ヵ月もたつて雑誌に載るころにはもうよく知られてしまつていることがある。

福田 経済的な問題ですか。

ボグリウボフ いや、皆が沢山論文を書き過ぎるのだ。学者が多いので一人で数ページとしても雑誌の紙幅をはるかに超える。英文では「ジャーナル・オブ・エクスペリメンタル・アンド・セオレティカル・フィジックス」（実験・理論物理学雑誌）を出している。

中村 ランダウの場の理論など日本では発表後一年たつてやつと知り得た。

福田 ソ連では現象論よりも純理論の研究が多いのではないか。両面からの努力が必要と思う。

ボグリウボフ 純理論だけを重視しているわけではない。現象論的研究にわれわれも力を入れている。しかし理論と実験との間が、米国ではソ連以上の協力が行われているのは事実だ。

マルチロシャン ソ連の理論物理学者は米国よりも少いが日本よりは多いだろう。

中村 この国際会議でとくに興味をもつた点は。

ボグリウボフ 出席できたのがなによりうれしい。このように外国の学者と接触するのは有益だ。いい刺激になつた。

ソ連の学位授与制度

中村 ところで物性方面の研究はどうですか。

ツァプリコフ 物性論でも十分な施設と研究費用があてられている。低温磁気研究（注＝ランダウ派の極低温の研究のこと）などの進歩はご承知の通りだ。

ボグリウボフ われわれは学問全般に重要性を認識している。それが現在の成果になつて現われているのだと確信している。

福田 ソ連ではなにか国家的政策があつて研究が進んだという見方もある。たとえば原子力開発と関係して研究など……。

ボグリウボフ そうではない。ソ連内では学問に急激な変化が時間をかけて低きから高きに進むものだ。いつかは花が開くときがくる。今がちょうどその時かも知れない。

ツァプリコフ 一時は戦争や復興のために中断もあつたが教育、医学、科学などの面に向うにしろ、全く自発的に進んでいる。

中村 ところで日本の物理学については。

ボグリウボフ 多数の有能な学者が大いに活躍しているのを興味深く思つている。あなた方の論文も必要なのは飜訳されて目を通している。

福田 日本ではソ連の教育制度に興味をもつているが、理科の学位はどうなつているのですか。

ボグリウボフ 十年の義務教育のあと、五年間大学にはいる。これにはまず厳重なふるい落しがある。それから三年の大学院を出るときに試験があつて、それをパスすると学位論文を出す資格が得られる。学位には〝博士〟と〝博士候補〟の二種類がある。博士候補試験に及第後実地方面に行く人もかなりある。博士になるにはさらに研究のうえ論文を出すが、審査は最も厳重だ。だから学位を得た人は非常な名誉と実力を認められる。

日ソの研究生活比較

福田 米学者の訪ソ報告によると研究の予算はずい分多いようだが……。

ボグリウボフ あらゆる科学は十分な予算を与えられている。

福田 日本の学者は給料が安くて半分は内職でかせいでいる。

ボグリウボフ ソ連では正教授で月俸六千ルーブル、助手で千二百ルーブルだ。

福田 こちらは湯川クラスで、ルーブルに換算すると助手の三分の一の四百ルーブルぐらい。

ソ連の外国人学者達

中村 ヴォルガ研究所が外人に開放されているそうだが（注＝百億電子ボルトの宇宙線発生機を建設中の原子核問題研究所のこと）

ボグリウボフ この種の研究所のどれかは開放されているはずだが詳しいことは知らない。

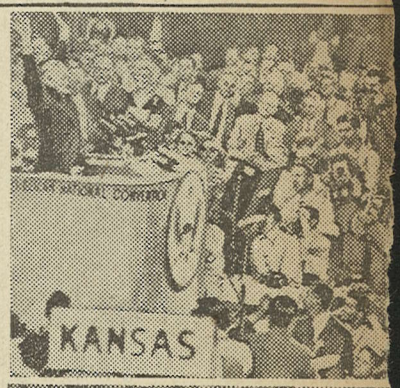
マルチロシャン モスクワ大学には中国人留学生が多勢いる。東欧人がこれにつぐが日本人はいないようだ。

福田 研究所の中では不満といつたものはありませんか。

ボグリウボフ 一切の面倒をみてくれているのでなんの不満もない。われわれはソ連の政府と国民にその点たえず感謝している。

注＝ランダウ、タムとも招請を受けたが、会議には不参加。いずれもソ連だけでなく世界的な理論物理学界の大御所である（共同）

日ソ物理学界の現状を語り合う右から中村、福田、マルチロシャン、ボグリウボフ、ツァプリコフの各博士



共和党大会で大統領候補に指名された
とスティヴンソンを大統領候補に選出し

パナマから地

再起を夢みるペロン元大統領

陣取ってキャバレー、ナイトクラブ通いをやつていたが、二、三ヵ月前からコロンにあるパンガロー風の家に借家住いをしているというどういう風の吹き回しか知らないが、このパンガローに移つてからのペロンは生活が非常に地味になり、余り外にも顔を見せないそうだ。用心棒兼運転手をつとめる大柄な男とキャバレーの人物が訪ねてきペロンはこれらのお客たちと愛用のドイツ製自動車オペルで町の外へ出て行く。近所のウワサでは、これは地下運動についての連絡をかねて車中の会談だそうだが、まんざらうなずけないこともない。ペロン自身はこのようにアルゼンチン政府はこれらの革命運動はいずれもペロンの指金であるといつているが、ペロン自身これを認めている。

◇…ペロンのところには時々ナ

絡をとるのに忙しいのだという

アルゼンチン国内では昨年九月のクーデター以後も数回にわたり反政府革命が起つたが、いずれも失敗に終つている。アルゼンチン国民の心から消えてはいず〝遠隔操縦による地下運動〟くらいで簡単に成功するものではないだろう。＝写真はパナマ空港のペロン元大統領（中央）

施に乗り出しているようである。併し力トリック教の支配的な国でこれを弾圧したというペロンのあやまちはまだアルゼン

起にかなり強い自信をもつて着着と〝夢よもう一度計画〟の実

ディボラ九に

つたのか」

「みんな名誉欲からで地位と金銭が欲しかつたからです。恥ずかしいことだと思つています」

「どうして共産党員や傷イ軍人や戦闘英雄になろうとしたのか」

「人々の尊敬を受けたかつたからです」

「お前は人をだましてそれで通せると思つたのか」

© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black